

ア、支那主導セリカ對外」八月三日博大興の本拠中、姑々忍て申辭を以て且て會員の申及リテ詫見不立との事、未來書を提出し、回答を求める所である。是討職セリと詫見詰

筆頭團體
錢主の當麻川銀がる資販氏の懸念

要來書の裏書き

八月二日既此ノ回復の歸來の鄭國書

1008年
本年鑑中付輶金各出しあらう
年鑑中〇費取全額還済をあらう
年鑑中〇日餘金賠支給する
調減減費より其支給する金額余額支給する

財團協調會福岡出張所
法人團體會議開出費

○敷島爭議した坑長逃げた代表者よこせ、
の電報を發すると共に坑所内の空家を借り受け之に爭議團本
部を設け赤旗二旒を竿高く掲げ（此の赤旗は爭議終了迄即ち
一ヶ月以上に亘り掲げられてあつた）團員は夫々資金を擧出
して遂に龍業に入つたが背後には全協福岡支部再建協議會團
係分子の策動支援があり其の態度はかなり強硬なるものがあ
つた。

b 會社側

坑夫側より要求を受けたる當初は遇々坑長（松本良三氏）病
氣入院中の爲坑長代理は之を拒絶すると共に、大阪の本社宛
代表者の派遣を求めたるところ、四日朝本社より仙石榮外二
氏來坑して坑長等と対策を練つた結果左の方針を以て坑夫側
と會見し萬一の場合は事業を休止するの態度を決定したので
ある、即ち